



JSCA・千葉 第13回通常総会記念講演会の報告

平成22年6月3日（木）於：三井ガーデンホテル千葉3階平安東の間にて、午後3時から、平成22年度定期総会記念講演会が行政、関係団体、協力会員から154名の参加者を得て真崎雄一司会で開催された。講演前の挨拶で今期から就任する園部隆夫代表から、本日の講演内容は「夢あるお話」との紹介がなされた。

講師：日本大学名誉教授(日本建築学会前会長)齋藤公男先生
 演題：「建築空間と構造」、副題「アーキエアリングへの招待」
 齋藤先生は、建築界の流れの中で、「建築家は建築への責任と誇りを持つ」ということから、建築学会会長時代に自ら名付けられた造語「アーキエアリング」のもとに、建築構造の面白さを再発見すべく模型を使つての建築解剖展覧会を開催されている。講演は、それらの内容をダイジェストした形で、古代の世界遺産から最先端建築まで、又、巨大な建築から身近な建築について、建築デザインとエンジニアリングが美しく融合された構築物をより深く覗き込んでみると、そこには歴史的背景とともに、いかにも人間らしい模索や苦悩して驚くべき工夫と発明の数々が見えてくるものがある。と言うことで、そのような建築物の一つ一つに自分の足で現場まで行って撮影されたたくさんさんのスライドを使つての説明には、素材を中心として、建築物を構築する知恵、アイデアと言うものが現代まで脈々とつながっているという実感を感じられ、講師の建築構造への興味の強さと情熱が感じられて引き込まれてしまいました。お礼の挨拶では、齋藤美佐男直前代表から、「あらためて構造の面白さを感じました。」と述べられた。

（楢山誠治）

JSCA・千葉 第13回通常総会懇親会の報告

平成22年6月3日（木）於：三井ガーデンホテル千葉3階平安南の間にて、午後5時30分から向後勝弘副代表の司会進行のもと、行政、関係団体、協力会員から140名余の出席者を得て開催された。JSCA千葉代表挨拶では、園部隆夫新代表から、「3代目の役目を果たす、若手技術者の育成に努める、技術者の良心を大切にす」と力強く表明された。JSCA本部からは福島正隆専務理事が挨拶され、「21年目に入ったJSCAの役割が更に期待される存在になって来ている」との報告がありました。来賓挨拶では、千葉県県土整備部次長子安正宏様から総会の無事終了の祝辞があり、「構造技術者の法的な資格が明確になり、社会的信頼と責任が要求されて来ている中、高い影響力を期待したい」とのお話がありました。次に、千葉市都市局建築部営繕課課長重城文夫様からは、千葉市建築行政への協力のお礼の言葉がありました。友好団体からは千葉県建築士会会長青柳英俊様が代表して挨拶されました。乾杯は千葉県建築士事務所協会会長荻原幸雄様の音頭により行われました。

祝宴も盛り上がる中、榑角藤千葉支店の平瀬慎一郎様の司会による出席協力会員全員の会社自己紹介がなされました。続いては恒例となった感のあるミニコンサートが催されました。今回も前代表の齋藤氏奥方の計らいによるもので、ピアノ伴奏に2人の声楽家の本格的なコンサートで盛大に盛り上がり、高尚な雰囲気会場に全員

会員委員会定期便

JSCA千葉「親睦旅行会」を12月頃に予定しています。
 （明智・斉藤）

が浸った一時でした。締めには初代表の飯島宏治監事からの挨拶があり、ディナショーと見紛う催し物も、JSCA千葉が苦しい台所の中で頑張っていることの実情を話されました。そして、13年前のJSCA千葉の創立時の状況から今日までを振り返つてのお話では、友好団体の温かい協力・援助があつてやって来れたということで、心からの感謝の言葉を述べられました。

最後に、30分も延長した盛大な懇親会を開催できたことに対し、出席の行政、関係団体、協力会員及び会員事務所の皆様に感謝申し上げます。（楢山誠治）

JSCA千葉・新代表 就任挨拶

SPC設計 園部 隆夫

JSCA・千葉の代表という役割に緊張を隠せない状況が今の偽らざる心境です。創設期の組織立ち上げ、対外的な立場の明確化を実現した飯島前々代表と当時の役員の皆様のご苦労、姉歯事件の発生とその後の過激な建築基準法の改正、資格の改正、構造設計者の資質の改善、意識改革など、社会的な荒波にさらされながらも、きっちりと舵を取つてこられた齋藤前代表の後を引継ぐのは大変だと感じている次第です。役員の方々の全面的支援を頂きながら、また、向後副代表、市原副代表の支えを頂きながら、一歩ずつ歩を進めて行きたいと思っております。

第一歩を踏み出すにあたり、以下の3点を重点目標として掲げました。

- 1) 今までのJSCA・千葉で積み上げてきた実績を踏まえ、方向性をそろえ、会員一丸となって着実に前進する。
- 2) 若手構造技術者の育成の場及びベテラン技術者からの知識と経験の伝承の場を設計事務所間の壁をはずし、共有の財産を育てる場として設けてゆく。
- 3) 市民、県民の目線で広い視野と認識を持ち、感受性の豊かな構造専門集団として役割を担つてゆく。

姉歯事件以来、構造設計者のおかれている社会的環境は、使命、役割、責任ともに重く厳しい状況となっております。自己研鑽に勤め、会員同士協力し合い、より高いレベルの専門家集団として成長して行けるよう努力してゆきたい。

設計品質と設計性能の維持と向上、安全安心な街づくりへの努力と貢献、行政、関係諸団体との協同等、皆様の理解と協力を得ながら、会員、役員と共に誠実に一歩一歩進んで行きたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



JASS5改訂に関する講習会に参加して

千葉県県土整備部建築指導課建築審査室 豊岡重人
 去る平成22年5月20日（木）、建築会館8階に於いてJASS5改訂に関する講習会が開催されました。講師には、JASS5の改定委員である古賀一八氏に担当していただき、聴講には、構造設計者、コンクリート共同組合、行政等の約40名集まりました。

鉄筋コンクリート工事JASS5が2009年2月20日に6年ぶりに改定になりました。6年前は中堅ゼネコンで構造設計および工事監理をやっていたので、当時は現場の職員に対し説明会をしたことを思い出しました。現在は構造設計者の立場から行政の立場に移り、6年前とは聞く耳が変わり法的にはどうなのか、中間検査、完了検査に行ったときに注意する部分はどこかが気になりました。

大きな改訂として、コンクリート強度の管理があります。コンクリート強度の管理は標準養生28日が基本となります。その強度が調合管理強度Fm（品質基準強度Fq+構造体強度補正值mSn）を満足すればよいこととなります。法とJASS5の関係を表1コンクリート強度の管理比較表に示します。

表1 コンクリート強度の管理比較表

告示昭和56建告第1102号		
供試体の養生方法	強度管理材齢	圧縮強度の基準
現場水中養生	28日	設計基準強度以上
コア抜き	28日	0.7×設計基準強度以上
又は	かつ	
現場封かん養生	91日	設計基準強度以上

旧JASS5(2003年)		
供試体の養生方法	強度管理材齢	圧縮強度の基準
現場水中養生	28日	品質基準強度(+3N/mm ² 含む)以上
標準水中養生	28日	品質基準強度(+3N/mm ² 含む)+温度補正T以上
現場封かん養生	28日を超え 91日以内のn日	品質基準強度(+3N/mm ² 含む)以上

新JASS5(2009年)		
供試体の養生方法	強度管理材齢	圧縮強度の基準
標準養生	28日	調合管理強度以上(呼び強度)
コア抜き	91日	品質基準強度以上
現場封かん養生	91日	品質基準強度+3N/mm ² 以上
現場水中養生	施工上	施工上必要な強度
現場封かん養生	必要な材齢	

コンクリート強度は告示昭和56建告第1102号で規定されています。JASS5は、同告示のただし書き扱いになり

管理上問題ありません。構造設計者は構造図の標準仕様書にJASS5の何年版で監理するか記載する必要があります。また、現場監理者は何を基準に管理するかを施工管理者と確認する必要があります。支保工解体、せき板解体等の現場での強度管理は、現場水中養生または、現場封緘養生の強度によります。現場管理用の試験体と躯体の強度の確認用の試験体が異なりますので注意が必要です。

コンクリート耐久設計基準強度が3種類から4種類に増え、短期（約30年：18N/mm²）、標準（約65年：24N/mm²）、長期（約100年：30N/mm²）、超長期（約200年：36N/mm²）となりました。また、コンクリート打設後のかぶり厚さ不足が懸念される場合の検査方法が示され、現場管理は、今まで以上にかぶりの管理が求められると思います。その他色々改訂がありました。とても勉強になりました。これからも知識及び刺激を求め、講習会等に参加していきたいと思つています。また、設計者と行政との関係を良くする手助けをしていければと思つています。今後ともよろしくお願い致します。

第四回若手向け講習会に参加して

（有）佐藤建築構造設計事務所 佐藤暢彦
 第四回目の講習は(株)免震システムサービスの富島誠司氏の約3時間に及ぶ講習でした。

若手向け講習会も第四回目となり、これまでより一歩進んだ実施設計の内容に踏み込んでおり、私自身、若手と言うより中堅となりますが、大変勉強・参考になる話題が多くとても興味深く聴講をさせて頂きました。今回も行政からの多くの参加を含め100名を越す聴講者が集まりました。

最近の構造の講習会ではよく「安全」と言う言葉を耳にしますが、富島氏の講習では随所に「壊れる」・「倒壊する」などの言葉が聴かれ、建築物が壊れていくプロセスを力学的に説明しながら、以外と簡単に（これがそうでもないのですが・・・）手計算でも追えること、また手計算による略算検討等を繰り返し直観力を身につけ、プログラム等の解析結果を検証してみるものの大切さをお話されていました。特に偏芯率や剛性率の他に、耐力の偏在や外力分布形の想定、時刻歴応答を含めた応力解析結果やそのモデル化の方法、最



後に、部材の断面や耐力から建物を吟味していくプロセスは大変面白く聴講させて頂きました。

日々、物件の提出や申請等の書類作成など、なかなか慣れない作業も多く、目の前の事を処理するに終わっている自分を振り返ると、耳が痛い話が多く、富島氏の建物に対する冷静な評価・検証また、的確な検証方法による結果の妥当性の判断、これらは、経験を積んだ先輩方の持つ余裕につながっており、是非自分も身に付けて行きたい部分であると思つていました。講習を聴講しているうちに、建築構造設計の安全性は「壊れる」・「倒壊する」をいかにうまくイメージすることが出来るかがとても大切であり、解析や建築構造設計は実はとてもシンプルなものではないかと思つていました。普段、富島氏とお話をしていると、ちょっとオトボケをいったり、とてもゆったりとした雰囲気のある方だと思つていましたが、講習会では、そんな話ぶりのなかにも厳しさを熱さが伝わってくるものでした。JSCAでの出会いの中で、こうした体験談を聞き仕事に生かせることはとても有意義なことであり、JSCAの目指す所なのではないかと思つていました。